

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島県立平支援学校 】

| | |
|--------------------|--|
| 1 実践テーマ | V |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 全校生徒83名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (実技講習会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 () |
| 4 目 標 (ねらい) | ボッチャ競技のパラリンピック候補選手や特体連専門委員の方々からの講習会を通して、スポーツの意義や価値への理解を深め、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図るとともに生涯を通して主体的にスポーツに親しむことができるようにする。 |
| 5 取組内容 | 障がい者スポーツ実技講習会 (1) 9:30~10:20 (全校生徒) ボッチャの実演 (世界大会出場者のモンストレーション) ボッチャ体験 (ランプ等使用) (2) 10:30~11:50 (高等部・中学部12ブロック生徒) 作戦や状況に応じた技能の習得 (3) 11:50~12:20 (高等部・中学部12ブロック生徒) 質疑応答、生徒からお礼の言葉、作業製品贈呈 |
| 6 主な成果 | 世界大会出場者のデモンストレーション後に全校生徒でランプの体験をして意欲的に学習に取り組むことができた。1・2ブロックの生徒は、ゲーム中心の中で、色々なテクニックの習得、作戦の立て方や状況に応じた技能を教わることで、今まで以上にボッチャに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成を図ることができた。体験後の感想には、「教えてもらった技を大会でできるように頑張りたい。卒業してもボッチャを続けたい。」という感想が見られた。また、実際に地域の障がい者スポーツ教室に参加する生徒が出てきた。 |

| | |
|-------------------------|---|
| 7実践において工夫した点 (事業の特色) | <ul style="list-style-type: none"> •世界大会出場者のデモンストレーションを見たり、一緒にゲームで戦ったりと、日本トップ選手との交流の時間を設けた。 •専門教師から実技指導をしてもらい、体験的な講習会にした。 •事前に生徒から質問を募集した。 |
| 8主な課題等 | <ul style="list-style-type: none"> •全校生徒対象になると講習内容の選定が難しい。 •必要物品の購入に制限があり、効果的な指導が難しい。 •年度始まってからの推進校依頼では、特に講師選定と交渉が困難である。 |
| 9来年度以降の実施予定 | <p>引き続きパラリンピック種目の研修を考えている。また、近隣の学校との交流学習の中で、障がい者スポーツへの取り組みと障がい者理解を進めていく。</p> |